

特集 新学習指導要領と Studyaid DB



アクティブ・ラーニングとデジタル教材

新学習指導要領が告示され、注目を集めています。

今回は、新学習指導要領の大きなポイントとなっている「主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）」におけるデジタル教材の活用を取り上げます。

アクティブ・ラーニングを意識した授業展開において、デジタル教材はどのような運用が考えられるでしょうか。

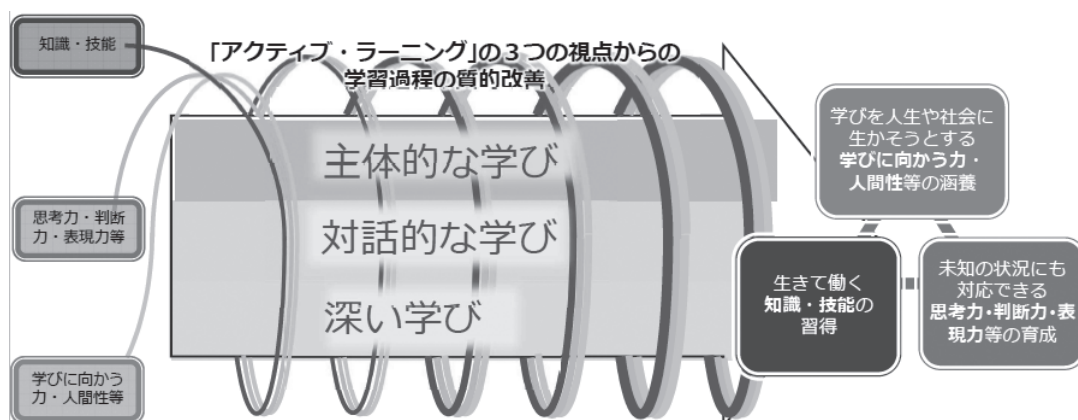
アクティブ・ラーニングの目的

新学習指導要領には、育成すべき資質・能力として次の3つが掲げられています。

- (1) 知識及び技能が習得されるようにすること。
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること。

また、各教科等の指導に当たっては、上記(1)～(3)が「偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと」とあります。

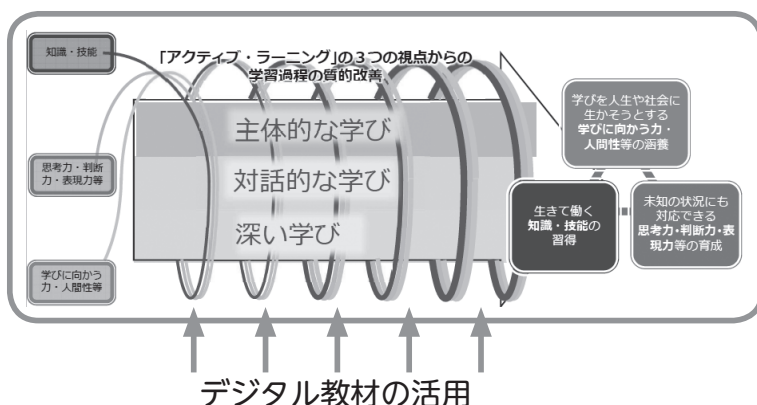
3つの資質・能力を育成するために、学びのあり方の見直しが求められています。



次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ 補足資料より引用

アクティブ・ラーニング型授業とデジタル教材

主体的・対話的で深い学びを目指したアクティブ・ラーニング型授業において、デジタル教材の導入は必須ではありませんが、さまざまな場面にうまく取り入れることで、学習効果や授業効率を上げることが可能であると考えます。



アクティブ・ラーニング型授業をイメージしたプリントを例に、具体的な活用例を示します。

アクティブ・ラーニング型授業プリントの例

課題 下の図ア～ウにおいて、 $\angle x$ の大きさを考えよう。($\ell \parallel m$)

ア

イ

ウ

気づいたこと

本日の活動

左ページの結果になる理由を、論理的に考えよう。

アの図にいろいろな補助線をひいてみよう。

方法①

方法②

方法③

方法④

グループに分かれて、それぞれの方法でどのように考えればよいか話し合ってみよう。

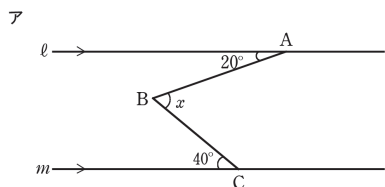
考えがまとまったら、ほかのグループの人にもわかるように説明してみよう。

答えは同じになるのかな？

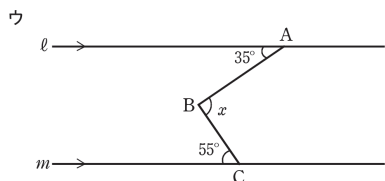
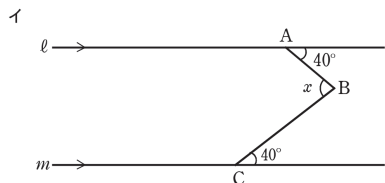
▲ Studyaid D.B. で作成したプリント

Studyaid D.B. はプリント作成システムを完備。数式やグラフ、図形など充実したエディタ機能を使って、どの領域のプリントも簡単・キレイに作ることができます。

準備 下の図ア～ウにおいて、 $\angle x$ の大きさを考えよう。($\ell \parallel m$)



まずは実際に測ってみよう。



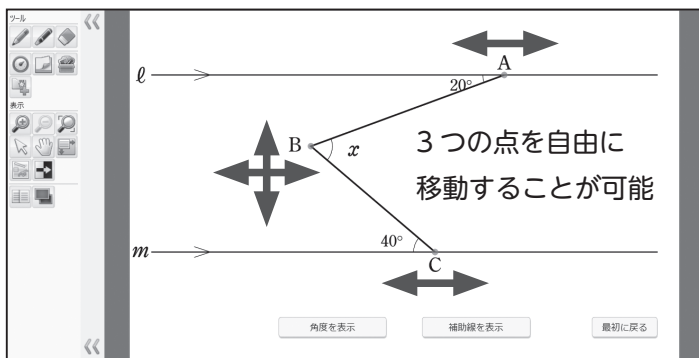
〈プリント趣旨〉

平行線と折れ線の問題は、既習の知識を使って多様に考えることができます。

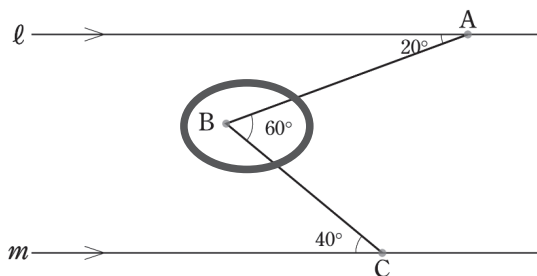
今回のプリント例では、補助線の引き方によって変わる考え方について理解し、他者に説明できるというところを目標としました。

本題となる活動に入る前に、 $\angle x$ を実際に測らせるなどして、 $\angle x$ に関する性質を予想・発見させています。

デジタル教材導入ポイント



配布プリントに記載する例には限りがありますが、デジタル教材を使うことで、少しずつ状況の異なる場面を数多く示すことができます。



角度の表示／非表示を切り替えて見せることができます。

時間短縮効果があるだけでなく、「角度を測る作業そのもの」から「測定された角度から図形的性質を考える」ことに意識を向かわせることができます。

▲ Studyaid D.B. のデジタルコンテンツ

解説用のコンテンツだけでなく、アクティブ・ラーニングに適した試行コンテンツも用意されています。

実践

アクティブ・ラーニングを効率的に

方法①

方法②

方法③

方法④

グループに分かれて、それぞれの方法でどのように考えればよいのか話し合ってみましょう。

考えがまとまったら、ほかのグループの人にもわかるように説明してみましょう。

答えは同じになるのかな？

〈プリント趣旨〉

生徒を4つのグループに分け、指定した方法を中心に考えさせる流れにしています。

プリント例には初めから4つの方法を挙げてありますが、時間に余裕があれば生徒に各方法を考えさせるのが理想です。

(見通しをもって補助線を引く)

デジタル教材導入ポイント

方法②だけを拡大表示してペンで書き込み

生徒に配布したプリントと同じものを大きく表示して書き込みを加えることができます。解説だけでなく、生徒に前で発表させる場面にも役立ちます。生徒が書き込んだ考え方や説明を保存しておき、別のクラスで提示するといった使い方も可能です。

▲ Studyaide D.B. のオリジナル板書機能

Studyaide D.B. で作成したプリント以外にも、Word や一太郎、PDF などのファイルを表示できます。これまでに作ったプリントを使ったアクティブ・ラーニングを行うこともできます。

デジタル教材を使用することで、共有化（授業に参加する全員が同じ情報を共有する）という効果も得られます。

図やグラフなどはワンクリックで同じものを共有できるので、授業を効率よく進められ、生徒が考える時間を確保することができます。



今回はアクティブ・ラーニングに活用できる機能を取り上げましたが、Studyaide D.B. には、ほかにも多くの機能が備わっています。詳しくは弊社ホームページをご覧ください。